



「旭化成グループ サステナビリティレポート2021」

第三者検証 意見書

2021年9月17日

旭化成 株式会社
代表取締役社長 小堀 秀毅 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長

尾崎 智



■ 報告書検証の目的

本検証は、旭化成株式会社が作成した「旭化成グループサステナビリティレポート2021 (Web版)」(以後、報告書と略す)を対象として、下記の事項について化学業界の専門家として意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア(以後、RCと略す)及びサステナビリティ活動
- 4) 報告書の特徴

■ 検証の手順

- ・ 本社において、各サイト(支社、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性・正確性及び数値以外の記載情報の正確性について調査しました。本社での調査は、会議室とWebを併用して、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること並びに資料の提示・説明を受けることにより行いました。
- ・ 旭化成メディカル(株)大分事業所(以後、大分事業所という)の検証は、旭化成本社と大分事業所を繋いだWeb会議で、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性及び数値以外の記載情報の正確性を調査しました。調査は、各業務責任者に質問すること、資料の提示・説明を受けること並びに現場写真を確認することにより行いました。
- ・ 数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・ 数値の算出・集計方法は、本社及び大分事業所において、合理的に集計されています。また、グループ本社において「RCパフォーマンスデータ収集システム」が用いられており、数値は正確にかつ効率的に集計されています。
 - ・ 調査した範囲に於いて、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・ 報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かり易さについて若干指摘しましたが、現報告書ではこれらの指摘事項は修正されています。
- 3) RC及びサステナビリティ活動について
 - ・ 2020年にメディア及び投資家向け「サステナビリティ説明会」で、社長自らの言葉で「2050年に向けたあるべき姿」を説明したこと、2021年5月に「2050年カーボンニュートラルを目指す」宣言をしたことを高く評価します。
 - ・ 「脱炭素社会への取り組み」、「循環型社会への取り組み」を具現化するため、各事業部がそれぞれの優れた技術によって、環境貢献製品の創出を推進していることを評価します。
 - ・ 経営上の重要課題とSDGsとの関連、主管部門、達成度を測る指標を明示し、事業部門だけでなくスタッフ部門を含めたすべての部署がSDGsのゴールに向けて活動していることを評価します。
 - ・ グループ全体で「私とみんなの『命を守る』安全行動」としてライフセービングアクションを2020年に定め、2021年から本格的に開始したことを評価します。この活動により、労働災害防止の著しい成果につながることを期待します。
 - ・ 新型コロナウイルス感染防止のため集合教育や集会が開催できない中、Webによる教育の実施、インターネットによるRC大会(2,300名参加)、オンラインでの出前授業等工夫をして活動を継続していることを評価します。
 - ・ 大分事業所では、重大リスクに対して本質安全化・安全防護対策を行い、①製品取出しロボットの更新、②塩酸中和設備の配管材質変更などを実施しています。その一連の取組みを高く評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・ 「2050年に向けたサステナビリティの方向性」のページを新設し、グループの進路を明示していることを評価します。
 - ・ ステークホルダーの要望に沿って、「マテリアリティに関連するSDGs課題」の表示、「事業を通じた貢献」ページ、「ESG調査インデックス」ページ、「ESG」ページを新設し、読者にわかりやすくなっています。